

(別紙様式3)

令和2(2020)年3月30日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 栃木県宇都宮市埴田1-1-20  
管理機関名 栃木県教育委員会  
代表者名 荒川 政利

令和元年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

平成31(2019)年4月1日(契約締結日)～令和2(2020)年3月31日

#### 2 指定校名

学校名 栃木県立佐野高等学校

学校長名 赤羽 浩

#### 3 研究開発名

地域貢献から世界の社会課題解決を目指す「田中正造型」グローバルリーダーの育成

#### 4 研究開発概要(令和元年度の取組の概要)

昨年までに当初の計画はほぼ全て実施し、今年度は改良を加えながら活動を洗練させ、マニュアル化を進めた。更に指定の終了後を見据え、継続すべき活動、持続可能な活動を見極め、自走に向けての準備を進めた。未実施であった高2の台湾グローバル研修での全員の課題研究発表、外部講師を招いての中高全職員対象の研修の本格実施も行った。

また、SGHを通して育成を目指す6つの資質・能力に関して高3生の伸びを分析したが、1月実施のアンケートによると全ての項目で伸びが見られた。特に「グローバル社会に貢献する高い志」は1年次から24.2%増加し、8割近い生徒が伸びの実感を示した。

SGHクラブでは、海外班は台湾からマレーシアにFW(フィールドワーク)の場を広げ、ディベート班、フランス語班は、帰国生のいない状況ながら、それぞれ1年生チームが「全国高校即興型英語ディベート合宿・大会 課外授業の部(初心者)」で全国優勝、「東日本フランス語スケッチ・コンクール」で審査員特別賞(第5位)を受賞する等活躍した。

地方の公立高校のグローバルへの熱い挑戦は温度を上げながら今年も続いている。

#### 5 管理機関の取組・支援実績

##### (1) 実施日程

| 業務項目                | 実施日程 |     |     |     |     |      |      |      |     |     |     |
|---------------------|------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
|                     | 5 月  | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
| ①運営指導委員会            |      |     |     | ○   |     |      |      | ○    |     |     |     |
| ②とちぎの高校生課題<br>研究発表会 |      |     |     |     |     |      | ○    |      |     |     |     |
| ③SGH成果<br>発表会       |      |     |     |     |     |      |      | ○    |     |     |     |

|                  |        |  |  |  |  |  |   |  |  |   |   |
|------------------|--------|--|--|--|--|--|---|--|--|---|---|
| ④課題研究発表<br>コンテスト |        |  |  |  |  |  |   |  |  | ○ |   |
| ⑤広報活動            | ○<br>← |  |  |  |  |  | ○ |  |  |   | → |

## (2) 実績の説明

### ①運営指導委員会の実施（8月、12月）

#### ア 第1回SGH運営指導委員会

(ア) 日時 令和元(2019)年8月20日(火) 13:30～15:45

(イ) 場所 栃木県立佐野高等学校 校長室

(ウ) 出席者

##### ・運営指導委員

池田 伸子（立教大学 副総長）

伊村 智（極地研究所 副所長）

田尻 信壹（目白大学人間学部児童教育学科学科長）

##### ・管理機関

山下 拓男（栃木県教育委員会事務局高校教育課課長補佐）

吉川 知宏（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）

(エ) 内容 ・本県のグローバル人材育成事業について

・佐野高校SGH事業についての説明

・佐野高校SGH事業についての意見聴取、質疑応答

#### イ 第2回運SGH運営指導委員会

(ア) 日時 令和元(2019)年12月13日(金) 14:30～16:30

(イ) 場所 栃木県立佐野高等学校 校長室

(ウ) 出席者

##### ・運営指導委員

伊村 智（国立極地研究所副所長）

加藤 潔（株式会社あしぎん総合研究所代表取締役社長）

田尻信壹（目白大学人間学部児童教育学科学科長）

##### ・統括アドバイザー

小松 俊明（東京海洋大学教授）

松金 公正（宇都宮大学学長補佐）

##### ・管理機関

山下 拓男（栃木県教育委員会事務局高校教育課課長補佐）

吉川 知宏（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）

相馬 学（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）

(エ) 内容

・今年度の事業について

・SGH成果発表会について

・次年度実施に向けた改善について

### ②「とちぎの高校生課題研究発表会」および「グローバル人材育成講演会」の実施（県主催）

ア 趣旨 県内高校生の課題研究の発表および講演会等を通して幅広い教養と専門性を身

に付け、グローバル人材の育成を図る

イ 日時 令和元(2019)年 11 月 20 日 (水)

ウ 場所 とちぎ福祉プラザ

エ 内容 県内各校が課題研究を発表。佐野高校は、SGHクラブ海外FW班がマレーシアでの調査、活動内容をポスタープレゼンする。

③SGH成果発表会における指導助言

ア 日時 令和元(2019)年 12 月 13 日 (金)

イ 場所 栃木県立佐野高等学校

ウ 内容 SGH活動の成果発表の生徒の発表に対して、指導助言を行った。

④「海外グローバル研修」課題研究発表コンテストにおける指導助言

ア 日時 令和2年2月26日(水) 予定

イ 場所 佐野市文化会館大ホール

ウ 内容 海外グローバル課題研究発表コンテストの生徒の発表に対する指導助言

⑤SGHに関する広報活動

- ・SGH校の取組の紹介ポスターの展示(県庁内)
- ・県教委だよりでのSGH校の紹介 等

## 6 研究開発の実績

### (1) 実施日程

| 業務項目                                                      |                                 | 実施期間(平成31年4月1日～令和2年3月31日) |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|-----------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------|---------|---------------|------|----|---------|---------|-----|----------|----|----|-------|
| グ<br>ロ<br>ー<br>バ<br>ル<br>探<br>究                           | グローバル基礎(1年)、応用(2年)、発展(3年)での課題研究 | 4月                        | 5月      | 6月            | 7月   | 8月 | 9月      | 10月     | 11月 | 12月      | 1月 | 2月 | 3月    |
|                                                           |                                 |                           |         |               | 1年   |    |         |         | 発表  | 発表       |    |    | 発表    |
|                                                           |                                 | 2年                        |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           |                                 | 3年                        |         |               | 発表   |    | 発表      |         |     | 発表       |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
| バ<br>ル<br>探<br>究                                          | 留学生等との協働グループワーク                 | 1年                        |         |               |      |    | ○       | ○       | ○   | ○        |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           | SGHリレー講座                        | 全学年<br>○                  | 1年<br>○ | 1年<br>○<br>2年 |      |    | 2年<br>○ | 2年<br>○ |     | 全学年<br>○ |    |    |       |
|                                                           | フィールドワーク                        |                           | 2年      |               | 合同FW |    | 1年      |         |     |          |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         | 台湾FW    |     |          |    |    |       |
|                                                           | 台湾グローバル研修(2年)                   |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
| カ<br>ナ<br>ダ<br>グ<br>ロ<br>ー<br>バ<br>ル<br>探<br>究            |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           | カナダグローバル研修(1年・40名)              |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    | 発表 | ○     |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    | カナ FW |
| S<br>G<br>H<br>ク<br>ラ<br>ブ<br>(研究班、<br>ディベート班、<br>フランス語班) |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |
|                                                           |                                 |                           |         |               |      |    |         |         |     |          |    |    |       |

|                    |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |
|--------------------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|
| 研究成果の発表            |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |
| 地域と連携した<br>課題研究の実践 | ← |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | → |

## (2) 実績の説明（主な取組）

### ①グローバル基礎（1年）での課題研究 ＜地域課題研究＞

#### ア 「地域リーダーシップシンポジウム」および「交流会」

(ア) 日時 令和元(2019)年6月13日(木) 6, 7限目および放課後

(イ) 場所 佐野高校の各教室

(ウ) 参加者

領域1 災害・公害からの復興・・・坂原辰男氏(田中正造大学事務局長)、金子好雄氏(佐野市危機管理担当参事)、小黒道則氏(佐野警察署葛生交番所長)

領域2 自然・生命(医療)・・・山門實氏(足利大学看護学部 部長)、飯郷雅之氏(宇都宮大学農学部教授)、青柳貴紀氏(里山農園やぎファーム代表)

領域3 食料・エネルギー・水・・・関塚学氏(あきやま有機農村未来塾事務局長)、島田嘉紀氏(第一酒造株式会社代表取締役社長)、河本祥久氏(株式会社波里常務取締役)

領域4 環境・経済・法律・・・吉田登志幸氏(オストコーポレーション北関東 代表)、山田実氏(さの総合法律事務所 弁護士)、野部武典氏(味噌まんじゅう 新井屋 代表取締役)

領域5 まちづくり・コミュニティ・・・吉澤章裕氏(空港サービス株式会社 代表取締役)、池澤智則氏(さのまちづくり株式会社 事業グループリーダー)、菊池輝一氏(佐野市移住・定住地域おこし協力隊員(お笑い芸人のテルさん))

領域6 教育・人権・文化・・・中山昌樹氏(認定こども園あかみ幼稚園 理事長)、川久保紀久子氏(日本女性会議2019さの実行委員会 副実行委員長)、秋山仁雄氏(クリケットタウン佐野 創造プロジェクトマネージャー)

(エ) 内容 持続可能な社会の実現に向けて実際に地場で活動をしている地域のリーダーの方を招いてシンポジウムを行い、直接、活動内容等について話を伺い、課題研究のテーマ設定のヒントとする。

#### イ 高大連携課題研究プロジェクト(佐野高校での留学生等との協働研究)

##### ＜第1回＞

(ア) 日 時 令和元(2019)年9月28日(土)

(イ) 参加者 175名(宇都宮大学の留学生等13名を含む)

(ウ) 内 容 これまでの研究に関してアドバイスをいただく

##### ＜第2回＞ ※台風のため中止

(ア) 日 時 令和元(2019)年10月12日(土)

(イ) 参加者 200名(宇都宮大学の留学生等40名を含む)

(ウ) 内 容 中間発表の準備・練習

#### ウ 課題研究中間発表会

(ア) 日 時 令和元(2019)年10月26日(土) 13:00～14:30

(イ) 場 所 宇都宮大学国際学部

(ウ) 指導助言者 地域デザイン科学部：石井大一郎、長田哲平、大森玲子、中村祐司  
国際学部：松金公正、藤井広重、栗原俊補  
教育学部：石塚諭、陣内雄次、小野瀬善行  
農学部：飯郷雅之  
工学部：大庭亨 他大学生及び大学院生多数

(エ) 内 容 1年生全員がバスで宇都宮大学に移動し、課題研究班を11分科会に分け、各班5分間の発表後、それぞれ15分程度の指導助言をいただいた。

エ 課題研究領域別発表会（→代表班の選考）

(ア) 日 時 令和元(2019)年11月14日(木)5～7限目

(イ) 場 所 栃木県立佐野高等学校の各教室（3会場）

(ウ) 内 容 ・領域別にすべての班が発表しルーブリックによって生徒同士で評価。  
・領域ごとの担当者の評価等をもとに1年の代表班を決定。

オ 課題研究成果発表会（→代表班のステージ発表、全班のポスター発表）

(ア) 日 時 令和元(2019)年12月13日（金）

(イ) 場 所 栃木県立佐野高等学校体育館

(ウ) 内 容 各領域の代表班のステージ発表、すべての研究班のポスター発表

カ 「海外グローバル研修」課題研究発表コンテスト（→最優秀班の決定）

(ア) 日 時 令和2(2020)年2月26日（水）

(イ) 場 所 佐野市文化会館大ホール

(ウ) 内 容 ・課題研究班8班による発表コンテスト（英語）  
→優勝班は研修先のカナダのUBC（ブリティッシュコロンビア大学）で発表  
・先進SGH校等の模範発表（英語）

キ 「海外グローバル研修」での課題研究の発表 ＊新型コロナウイルス感染拡大のため中止

(ア) 日 時 令和2(2020)年3月13日（金）、14日（土）

(イ) 場 所 カナダのバンクーバー近郊、UBC（ブリティッシュコロンビア大学）

(ウ) 参加者 海外グローバル研修参加者（希望者から選抜された45名）

(エ) 内 容 課題研究発表コンテスト優勝班による発表、すべての班の発表

②グローバル応用（2年）での課題研究 ＜異文化研究＞

ア SGHリレー講座

(ア) 日 時 令和元(2019)年6月14日（金）

(イ) 場 所 佐野高校旭城ホール

(ウ) 講 師 宇都宮大学国際学部 松金公正教授

(エ) 内 容 1年次に取り組んだ「地域課題研究」をいかに2年次の「異文化研究」へとつなげていくか。

イ 地域のリーダーとの交流会

(ア) 日 時 令和元(2019)年6月13日（木）放課後

(イ) 場 所 佐野高校の選択3教室

(ウ) 参加者 ①アの「地域リーダーシンポジウム」講師および希望者

(エ) 内 容 希望する生徒は、講師と関連がある課題研究に関する指導を受ける

ウ 課題研究中間発表会

(ア) 日 時 令和元(2019)年7月12日（金）6・7限目

- (イ) 場 所 佐野高校の各教室
- (ウ) 指導助言者 地域デザイン科学部：中村祐司  
国際学部：松金公正  
教育学部：小野瀬善行  
農学部：大久保達弘  
工学部：大庭亨  
留学生・国際交流センター：飯塚明子
- エ 課題研究領域別発表会（→代表班の決定）
  - (ア) 日 時 令和元(2019)年9月19日（木）6，7限目
  - (イ) 場 所 佐野高校の各教室
  - (ウ) 内 容 領域別に各班の発表、ループリックによる評価等により、代表班を決定。
- オ S G Hリレー講座
  - (ア) 日 時 令和元(2019)年9月27日（金）7限目
  - (イ) 場 所 佐野高校の旭城ホール
  - (ウ) 講 師 宇都宮大学国際学部 松金公正教授
  - (エ) 演 題 「近くて遠い国 台湾」
- カ 「台湾グローバル研修」での交流校（高雄市立高雄女子高級中學）での課題研究発表
  - (ア) 日 時 令和元(2019)年10月17日（木）
  - (イ) 場 所 高雄市立高雄女子中学校（高雄市）
  - (ウ) 内 容 1年次の研究の代表的な研究8つを全生徒で英語でポスタープレゼン、質疑応答を行った。
- キ 「台湾グローバル研修」での現地大学生との協働研究
  - (ア) 日 時 令和元(2019)年10月17日（木）
  - (イ) 場 所 高雄市内（班別行動）
  - (ウ) 内 容 異文化発見をテーマに現地大学生との協働研究を実施。
- ク 課題研究成果発表会（→代表班の口頭発表、全班のポスター発表）
  - (ア) 日 時 令和元(2019)年12月13日（金）
  - (イ) 場 所 佐野高校体育館
  - (ウ) 内 容 各領域の代表班の口頭発表（日本語2班、英語2班）、代表班以外の全ての研究班のポスター発表

### ③グローバル発展（3年）での課題研究 <キャリアパス探求>

- ア オリエンテーション
  - (ア) 日 時 平成31(2019)年4月11日（木）
  - (イ) 場 所 佐野高校旭城ホール
  - (ウ) 指導者 S G H推進部
  - (エ) 内 容 キャリアパス探求の進め方について説明した。
- イ キャリアパス探究レポート提出
  - (ア) 日 時 令和元(2019)年7月22日（月）
  - (イ) 場 所 各HR
  - (ウ) 内 容 シンカ宣言（英語）の提出

④SGHリレー講座（上記で記載した以外のもの）

ア SGH 講演会（中高全学年）

- （ア）日 時 平成 31(2019)年 4 月 15 日（月） 6・7 限目
- （イ）場 所 栃木県立佐野高等学校の体育館
- （ウ）講 師 東京海洋大学 小松俊明教授
- （エ）演 題 「今、アジアで何が起きているのか～グローバル化のリアルを考える～」

イ 「現場を知る」ためのフィールドワーク入門（1 年）

- （ア）日 時 平成 31(2019)年 4 月 25 日（木） 6・7 限目
- （イ）場 所 栃木県立佐野高等学校の武道場
- （ウ）講 師 東洋大学国際地域学部 柏崎梢 助教
- （エ）内 容 フィールドワーク入門～羅針盤となる仮説をつくる

ウ クリティカルシンキング特別講義（1 年）

- （ア）日 時 令和元(2019)年 6 月 22 日（土）
- （イ）場 所 栃木県立佐野高等学校の体育館
- （ウ）講 師 帝京大学法学部 若山昇准教授
- （エ）内 容 クリティカルシンキングとは何か

⑤SGHクラブ（研究班、ディベート班、フランス語班、主な活動）

ア マレーシアフィールドワーク（研究班）

- （ア）日 時 令和元(2019)年 7 月 21 日（日）～26 日（金）
- （イ）場 所 マレーシア（サラワク州）
- （ウ）参加者 海外班（14 名）
- （エ）内 容 「森林・焼畑分野」「森林・観光」「民族・文化」「教育・言語」の 4 チームを結成し、以下の活動を行った。  
「サラワク文化村」、「アナライス村（ビダコ族の村）」での FW。「セント・テレサ中等教育学校」、「マタン野生動物センター」「UNIMAS（マレーシア国立サラワク大学）」訪問、「イオンモール マレーシア・クチン」、「クチン大規模市場」「サラワク博物館」見学等

イ 福島フィールドワーク（研究班）

- （ア）日 時 令和元(2019)年 8 月 4 日（日）～5 日（月）
- （イ）場 所 福島県双葉郡、いわき市
- （ウ）参加者 国内班（14 名）
- （エ）内 容 「震災からの復興と今後の取り組み」をテーマに、J ヴィレッジ、東京電力廃炉資料館、第 4 回福島第一廃炉国際フォーラム、久ノ浜防潮堤を見学、ふたば未来学園高等学校と交流を持った。また、豊間地区集会所で被災復興の現状と課題を当事者の方々から聴くランチミーティングを実施した。クラブ員も事前研究した内容についてプレゼンテーションを行った。

ウ 令和元(2019)年度栃木県英語ディベート春季大会

- （ア）日 時 令和元(2019)年 6 月 16 日（日）
- （イ）場 所 栃木県立宇都宮東高等学校
- （ウ）参加者 ディベート班（22 人）
- （エ）内 容 TCL 部門（ビギナー即興型）  
団体：準優勝、3、7、8、10 位(32 チーム中)

- 個人：1、2、4、6、10位(99人中)
- エ PDA 全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会 2019  
 (ア) 日 時 令和元(2019)年8月7日(水)、8日(木)  
 (イ) 場 所 ホテルフクラシア大阪ベイ  
 (ウ) 参加者 ディベート班(10名)  
 (エ) 内 容 課外授業の部(初心者)に出場し以下の成績を収めた。  
 団体：優勝 個人：ベストディベーター賞(2名)  
 ベストPOI賞(2名)
- オ 「パリ祭 at 佐高」開催  
 (ア) 日 時 令和元(2019)年7月12日(金) 16:30～18:00  
 (イ) 場 所 佐野高校英語演習室  
 (ウ) 参加者 フランス語班(20名)、足利大学のフランスからの留学生3名  
 (エ) 内 容 フランス語によるシャンソン歌唱等の発表、交流会。
- カ 東日本高校生フランス語スケッチ暗唱コンクール参加(フランス語班)  
 (ア) 日 時 令和元(2019)年11月16日(土) 13:00～17:45  
 (イ) 場 所 アンスティチュ・フランセ東京(飯田橋)  
 (ウ) 参加者 フランス語班(4名)  
 (エ) 内 容 フランス語の寸劇(スケッチ)を暗唱し演じる。  
 審査員特別賞(第5位)受賞
- キ 東日本高校生フランス語暗唱コンクール参加(フランス語班)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大のため中止  
 (ア) 日 時 令和2(2020)年3月15日(日) 13:00～17:00  
 (イ) 場 所 慶應義塾大学三田キャンパス  
 (ウ) 参加者 フランス語班(2名)  
 (エ) 内 容 文学作品の一遍を暗唱する。

#### ⑥研究成果の校外での発表等

- ア とちぎの高校生課題研究発表会(県主催)  
 (ア) 日 時 令和元(2019)年11月19日(火)  
 (イ) 場 所 とちぎ福祉プラザ  
 (ウ) 参加者 SGHクラブ海外班(14名)  
 (エ) 内 容 県内各校が課題研究を発表。佐野高校はSGHクラブ海外班がマレーシアFWについて発表した。
- イ 第3回全国高校生フォーラム(文科省主催)  
 (ア) 日 時 令和元(2019)年12月22日(日)  
 (イ) 場 所 国際フォーラム  
 (ウ) 参加者 SGHクラブ海外班(5名)  
 (エ) 内 容 マレーシアFWを含む研究内容を英語で発表

#### ⑦地域や大学等と連携した課題研究の実践等(主な取組)

- ア 佐野市「クールアースデイ」参加  
 (ア) 日 時 令和元(2019)年7月15日(月)  
 (イ) 場 所 佐野市交流プラザぱるぼーと



- (ウ) 参加者 なし
- (エ) 内 容 課題研究ポスターを展示
- イ トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム「高校生コース」
- (ア) 日 時 令和元(2019)年 7 月 28 日 (日) ～ 8 月 13 日 (火)
- (イ) 場 所 オーストラリア
- (ウ) 参加者 2 年生(1 名)
- (エ) 内 容 異文化理解とオーストラリアでの働き方を学ぶために現地でアンケート等を実施した。
- ウ トビタテ！留学 JAPAN 「アカデミック部門」
- (ア) 日 時 令和元(2019)年年 7 月 27 日 (日) ～ 9 月 28 日 (土)
- (イ) 場 所 アメリカ
- (ウ) 参加者 1 年生 (1 名)
- (エ) 内 容 ニューヨークにダンス留学をし、世界トップレベルのダンサーに指導を受けた。将来はダンスの指導者となることを考えており、留学の経験を子供たちに広めたいと考えている。
- エ 東京農業大学主催「環境教育プログラム」受講
- (ア) 日 時 令和元(2019)年 7 月 30 日 (火)
- (イ) 場 所 佐野高校 英語演習室
- (ウ) 講 師 東京農工大学 佐藤敬一准教授 他
- (エ) 参加者 1 年生 (7 名)
- (オ) 内 容 アメリカの環境教育プログラムを受講し、資格証を発行。資格を有した者が、実際に小学校での授業を実施する。
- オ 小学校での環境教育プロジェクト
- (ア) 日 時 第 1 回 令和元(2019)年 11 月 1 日 (金) 全員(学習のサポート)
- 第 2 回 同 12 月 2 日 (月) 27 班 (佐高生による授業)
- (26 班 授業サポート)
- 第 3 回 同 12 月 20 日 (金) 26 班 (佐高生による授業)
- (27 班 授業サポート)
- (イ) 場 所 佐野市立佐野小学校
- (ウ) 参加者 S G H 課題研究班 1 年生 (8 名)
- (エ) 内 容 東京農業大学と連携して、総合的な学習の時間で環境教育を実践する。2 チームを編成し、それぞれ 1 回ずつ授業を行う。なお、授業の指導案の検討および模擬授業を校内でそれぞれ数回実施。また、両班とも 1 回ずつグループ学習のサポートを行う。
- カ 茂木町農林課 都市農産交流協議会全体会
- (ア) 日 時 令和元(2019)年 9 月 24 日 (火)
- (イ) 場 所 茂木町民センター
- (ウ) 参加者 S G H クラブ海外班 14 名、教員 2 名
- (エ) 内 容 マレーシア F W の内容について発表する。
- キ 田中正造の日 環境フェスタ \*台風被害のため中止
- (ア) 日 時 令和元(2019)年 10 月 12 日 (土)
- (イ) 場 所 佐野市文化会館小ホール
- (ウ) 参加者 S G H クラブ国内班 14 名

- (エ) 内 容 福島FWの内容について発表する。
- ク 「地球子どもサミット(The Earth Children Summit) OCEAN's 47」
- (ア) 日 時 令和元(2019)年8月8日(木)
- (イ) 場 所 衆議院第一議員会館会議室
- (ウ) 参加者 1年生(1名)
- (エ) 内 容 各都道府県代表1名が集まり、海洋プラスチック問題について学び議論した。
- ケ 「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道
- (ア) 日 時 令和元(2019)年9月10日(火)～9月11日(水)
- (イ) 場 所 北海道立総合体育センター(北海きたえーる)
- (ウ) 参加者 2年生(2名)
- (エ) 内 容 各国代表の高校生が参加し意見の交換を行った。県代表として参加した本校生2名は、分科会では司会、進行を務め、全体会では、代表としてまとめのスピーチ等を行った。
- コ 「地球子どもサミット(The Earth Children Summit) OCEAN's 47」沖縄視察
- (ア) 日 時 令和元(2019)年11月23(土)～24日(日)
- (イ) 場 所 国際海洋環境情報センター(沖縄県那覇市)
- (ウ) 参加者 1年生(1名)
- (エ) 内 容 「地球子どもサミット OCEAN's 47」の活動の一環として、国際海洋環境情報センターを訪問し、在日米軍第4海兵隊と海岸のゴミ拾いを実施するなどした。

#### ⑧海外の高校、大学等との交流会の実施等

##### ア フィジー高官との交流会

- (ア) 日 時 令和元(2019)年5月20日(月)
- (イ) 場 所 佐野高校 選択教室4、グラウンド
- (ウ) 訪問者 テキニ・ナキダキダ氏(フィジー農業省シニア研究オフィサー)  
長野暁子氏(農林水産省)ラグビー部20名、佐野市観光課職員2名
- (エ) 内 容 テキニ氏の「気候変動」に関するプレゼンを聞き、質疑を行う。その後、校庭でラグビー部員と体験を行って交流を深めた。

##### イ クリケット U19 サモア代表チームとの交流会

- (ア) 日 時 令和元(2019)年6月6日(木)
- (イ) 場 所 佐野高校 選択教室3, 4, 第2体育館
- (ウ) 訪問者 クリケット U16 チーム8名、引率教諭4名、通訳2名、事務局1名、佐野市観光課職員2名
- (エ) 内 容 歓迎式典、校内見学、授業参加、ゲームを通しての交流会、クリケット体験をした。

##### ウ スリランカ U19 代表チームとの交流会

- (ア) 日 時 令和元(2019)年11月8日(金)
- (イ) 場 所 佐野高校 選択教室4
- (ウ) 訪問者 スリランカ U19 代表チーム6名、引率教諭2名、通訳2名、事務局1名、佐野市観光課職員2名
- (エ) 内 容 歓迎式典後、授業に参加し、交流会を行った。

## 7 目標の進捗状況、成果、評価

本校では、SGH活動で以下の6つの資質・能力を育成することを通して「田中正造型グローバル人材の育成」を目指している。そのようなわけで以下の能力の育成状況について見ていきたい。

### (1) SGHを通して育成を目指す「グローバルリーダーの資質・能力」

#### ①課題を発見し向き合う力

3年生1月のアンケート結果によれば、85.7%（1年次から19.3%の増加）の生徒が伸びを実感した。6つの力に関する評価の中でも育成が難しいと思われた「課題発見力」を高3生はもっとも育成されたと感じている。本校では、1年次に課題を設定する前の6月、地域で実際に課題に取り組むリーダーに参集いただき、「地域リーダーズシンポジウム&交流会」を2017年より開催している。リーダーから実際の状況を直接聞くことによって生徒たちは与えられたテーマに義務的に取り組むのではなく、現実を知って自発的にテーマ設定を行っている。また、2年次には1年の研究を元に、1年次とは別の国（another country）を設定し新たに課題設定を行うことも要求される。このような本校のプログラムを通して上記の力が効果的に育成されていると考えられる。

#### ②論理的・批判的に思考する力

2017年2月から実施しているクリシン（クリティカルシンキング）テスト（帝京大学若山准教授作成）によると、測定した全ての年度で2年次2月には、平均がゼロ（平均的な大学生の値をゼロとして論理力を測る）を越えた。つまり、本校生は、2年生の2月までに、大学生の平均を上回るクリシン力を生徒の過半数が身につけてきたことになる。また、SGH指定4年目となる今年度は、1、2年とも過去最高点をマークした。1年の1月次には全体の41.8%（昨年は34.7%）が、ゼロ（大学生の平均）を占めるようになった。12月実施のGPS-Academicテストでは、「批判的思考力」の総合結果（選択式と記述・論述式）でB以上の生徒が97%となった。本校では、学校設定科目CTP（Critical Thinking Project）、課題研究等を通して上記の力を養成しているが、極めて順調に育成されているといえる。

#### ③協働して課題を解決する力

GPS-Academicテストでは、「批判的思考力」、「協働的思考力」、「創造的思考力」の3つの思考力が計測できるが、それによると1、2年共に「協働的思考力」が「学年の強み」という結果となった。クリシンテストによる本校生の「批判的思考力」の高さを考えると客観的にもかなり高いことが予想される。1年次との比較では、総合結果B評価以上が78%から90%に増加した。また、S評価の生徒1名出ている。選択式では、A評価が17%から38%と大幅に増加した。

3年生のアンケートでも83.8%の生徒が肯定的に答えた。1年次から12.7%の増加である。本校の課題研究は、1、2年共にグループ研究（1、2年次は別グループ）であり、一のテーマの元に皆で協働することが要求されている。また、CTPのディベート（日本語及び英語）では、それぞれまた別の班が編制される。1年3月に行う海外グローバル研修、2年次の台湾グローバル研修も班編制は別である。

このように本校のあらゆるSGH活動が様々な人たちとのやりとり、協働を元に成り立つ仕組みになっている。これらを通して生徒たちは上記の力が極めて効果的に育成されている。

#### ④情報を発信する力

3年次アンケートでは、85.2%の生徒が上記の力の伸びを実感している（1年次より11.6%の増加）。本校では、1年次の10月中間発表、11月領域別発表、12月成果発表会、2年次の7月中間発表、9月領域別発表、12月成果発表と全ての生徒が2年までに、最低6回の

課題研究発表を行っている。

また、1年次には、希望選抜で学年の各1/4の生徒が2月に市の大ホール、3月にカナダの高校、大学で英語プレゼンテーションを行っている。同コンテストは来場者から高い評価を受けている。更に今年度は高2の生徒全員が台湾グローバル研修（修学旅行）で現地の高校で課題研究の英語によるポスタープレゼンテーションを行った。このように本校では発表を行う機会が極めて多く、生徒達のパワーポイント（PPT）やポスターを使った日英による高度な発信力が効果的に育成されている。昨年度参加した第3回関東甲信越静地区SGH課題研究発表会ではエントリーした6班全てが予備審査を通過し、1つの班は日本語プレゼンテーション部門最優勝（第1位）を獲得した。

更に希望者によるSGHクラブでは、各種課題研究発表、英語による即興ディベート、フランス語による発表等様々な発表の機会がふんだんにある。ディベート班では帰国生のいない1年生チームながら即興型英語ディベート合宿・大会2019で全国優勝、フランス語班も帰国生ゼロながら東日本フランス語スケッチ・コンクールで審査員特別賞（第5位）を受賞する等活躍している。

#### ⑤英語で伝える力

SGH指定前から中学3年生のCTPで、英語ディベート等を行ってきたが、昨年度から英語グループプレゼンテーション、英語ディベートに特化して指導を行っている。高1のCTPでは更に発展的な形式のディベートを行っている。また、上述のように高1の希望者は海外グローバル研修を目指し英語による課題研究のプレゼンテーションに取り組み、2年生は全員が台湾で英語発表を行ってきた。

また、国際的な様々な社会課題について英語で議論したい生徒はディベート班に所属して、県内外の様々な大会に参加し、8月には帰国生のいない1年生チームながら「全国高校即興型英語ディベート合宿・大会 課外授業の部（初心者）」で全国優勝を果たした。

英検では、2級の生徒が、過去最高の47名（2016年21名、2017年25名、2018年32名）となった。また、帰国子女がほぼゼロの本校にあっては、準1級合格は至難の業であったが、2017年2名、2018年3名、2019年2名と毎年合格者が出るようになった。

#### ⑥グローバル社会に貢献する高い志とチャレンジ精神

1月に実施した3年生のアンケートによれば、78.9%の生徒が伸びを実感しており、これは1年次の54.7%から24.2%の上昇となった。

また、「トビタテ！留学Japan 日本代表」に3年連続、今年は2名選出された。AFS留学も1名挑戦し現在アメリカで研修に励んでいる。「高校生サミット」にも県代表として2年連続、今年は2名で参加、希望して分科会の進行を担当し、全体会でも約3千人の聴衆の前で、アメリカ代表と共に報告を行った。

### （2）中間評価について

#### ○1年生と2年生の学びや指導のつながり

1年次の地域課題研究を元に、「another country」を特定し、2年次に全員が訪問する台湾も加えて比較研究する設計になっているのでその繋がりを意識し、1年次の終わってから班ごとにシミュレーションを行った。ただ2年次に班が新たになるためスタートに戻ってしまう班もあり時間的に厳しくなってしまう面もあった。次年度はその点に気をつけて進めたい。

#### ○3年生の個人研究（キャリアパス探究）について

以下の日程で2年間の研究を詳細に振り返ってまとめ、継続して追究したい内容やさらに育成したい資質等を明確にし「学びの計画書」を作成し、キャリアに繋がる道（キャリアパ

ス)を探究し、生き方について宣言を英語で書く（シンカ宣言）という流れを年を追うごとに学年団も深く理解するようになっていく。AO入試等の過去最高の合格数や生徒の進路選択を見るにつけ、2年間のSGHの学びの総合化・統合化が本校では極めて理想的に実現されていることが毎年確認されている。

- 4月           ワークシートを使い2年間の研究を詳細に振り返る。
- 5・6月       ワークシートを基に継続して探究したい事柄や育成したい資質・能力についてまとめ、大学、学部、仕事について探究しながら「学びの計画書」を作成。
- 6・7月       シンカ宣言の作成。
- 8月～       添削指導
- 1月           完成

#### ○「グローバルリーダーのロールモデルが描けたのか」などの総合的な評価・達成状況

先に確認した「6つの資質・能力がバランス良く育成されることで本校が目指すグローバル・リーダーがトータルとして育成される」と考えるため、それらの総合的な達成度によって上記の総合的な評価・達成状況を確認したい。

またSGH活動の当事者である生徒、特に3年間の活動を終える3年生の感想は極めて重要である。3年1月実施のアンケート集計結果は図表1の通りであるが、全ての項目で生徒達は3年間の伸びを実感した。また、ほとんど全ての項目（6項目中4項目）で8割以上の生徒が肯定的な回答をした。

高3の6つの能力の回答を平均すると77.2%となり、トータルとして8割近い生徒が本校の目指すグローバルリーダーの資質・能力を総合的に達成した。全体としては、「⑤英語で伝える力」のみ45%と低かったが、海外グローバル研修等に参加した生徒たちに関してはやはり8割近い生徒が伸びを感じていた。そうした生徒達に関しては、81.8%となる。指定4年目にして8割の生徒が総合的に目標を達成したのは喜ばしい限りである。

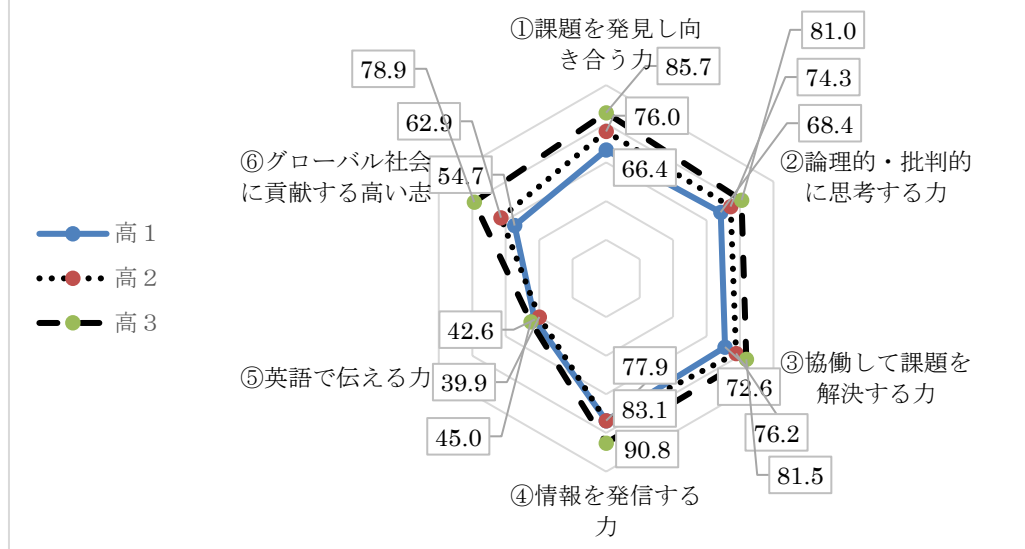
図表1 29年度入学生 肯定的な回答の割合（%）の推移（回答数143）

| 佐高SGHが伸ばしたい6つの力  | 高1      | 高2      | 高3      | 3年間の<br>伸び率 |
|------------------|---------|---------|---------|-------------|
|                  | 2018.2月 | 2019.2月 | 2020.1月 |             |
| ①課題を発見し向き合う力     | 66.4    | → 76.0  | → 85.7  | +19.3       |
| ②論理的・批判的に思考する力   | 68.4    | → 74.3  | → 81.0  | +12.6       |
| ③協働して課題を解決する力    | 72.6    | → 76.2  | → 81.5  | +8.9        |
| ④情報を発信する力        | 77.9    | → 83.1  | → 90.8  | +12.9       |
| ⑤英語で伝える力         | 42.6    | → 39.9  | → 45.0  | +2.4        |
| ⑥グローバル社会に貢献する高い志 | 54.7    | → 62.9  | → 78.9  | +24.2       |

|           |      |      |      |      |
|-----------|------|------|------|------|
| ⑤英語で伝える力※ | 63.0 | 71.7 | 72.7 | +9.7 |
|-----------|------|------|------|------|

※143名のうち、海外グローバル研修や校外コンテスト等の英語プレゼン参加者45名

図表2 H29年度入学生 肯定的な回答の割合



## 8 次年度以降の課題及び改善点

### (1) 教育課程の研究開発の状況について

#### ①指定後のグローバル・リーダーの育成に資する教育課程における変化、工夫これまでの取組について

##### <現在までの取組>

- ・「社会と情報」を学校設定科目「グローバル情報」に変えて1、2年各1単位ずつにして実施してきた。効果的な課題研究の実施を目指し、1年次にはプレゼンテーション等を通じて情報検索やPPT等の使い方等を学び、2年次には、課題研究の基礎調査、総合的な学習の時間の探究内容をまとめた。
- ・CTPでは、指導内容を一新した。1学期には「クリシン基礎」として4教科のクリシンの授業を行い基礎を学ぶ。2学期には「クリシン応用」として1学期に学んだ内容を日本語ディベートの場で使い、3学期には「クリシン発展」で、各教科のプレクチャーを踏まえ英語ディベートを行った。「教科横断型アクティブラーニング」を実践した。

##### <課題及び改善点>

- ・2年次では新たな班で、海外との比較を入れながら研究を進めるため、時間的に内容を深めにくい面があった。特に4月のスタート時点でのテーマ設定、比較対象国を早く決定し、進捗カルテを有効に利用しながら進めていく。
- ・クリシンでは、より英語科と連携し、英語表現等の授業の中で中学での学びを確認し定着をはかる。

#### ②先進的な課題研究等の実績を踏まえたグローバルリーダーの育成に資する発展的な実践について

##### <現在までの取組>

- ・FWの日の設定  
8月上旬に基準日を決め、1、2年全ての生徒がFWを実施した。
- ・海外グローバル研修  
1年生希望者選抜による40名(学年の約1/4)が3月にカナダの高校、大学を訪問し、課題研究のプレゼンテーションを行った。事前に市の大ホールで実施するコンテストは進行も全て生徒が行ってきた。
- ・台湾グローバル研修  
今年度2年生全員が訪問先の高雄高級女子中學校で課題研究のプレゼンテーションを行った。

・SGHクラブ研究班

訪問先の台湾等で課題研究に関するプレゼンテーションを行った。

＜課題及び改善点＞

基本的に良好である。台湾グローバル研修でのプレゼンテーションの継続実施、海外班のマレーシアでのプレゼンテーションを実施したい。

（２）高大接続の状況について

＜現在までの取組＞

①グローバル教育統括アドバイザーの設置

宇都宮大学 松金公正 学長補佐、東京海洋大学 グローバル教育研究開発機構 小松俊明教授に依頼して、年間を通して全体的な指導を受けてきた。また、年度当初にはアドバイザー会議を開催し詳細に指導を受けている。

②リレー講座

松金教授を中心に定期的に大学の先生から講演をいただいていた。

③発表会の指導

7月 高2中間発表会

研究領域全6分野に当たる先生方をお招きして指導を受ける。

10月 高1中間発表会

宇都宮大学のキャンパスで実施し、院生、大学の先生方から指導を受ける。

12月 成果発表会

統括アドバイザー、運営指導委員、協力大学の先生方からアドバイスをいただく。

2月 海外グローバル研修発表コンテスト

審査員、指導、アドバイスをいただく。

④教員研修

4月 宇都宮大学 松金公正 教授から課題研究の入り口指導を中高全教職員が受けた。

10月 千葉大学 高橋佑真 助教から課題研究の出口指導（ポスター作成等）を受けた。

⑤留学生による指導

宇都宮大学、足利大学から留学生を招き、1年晴雨の研究班に入ってもらい指導を受ける。

⑥FWについてのワークショップ

東洋大学柏崎梢助教によるワークショップの実施。

⑦クリシンテスト

帝京大学若山昇准教授作成の上記テストを受け、分析、アドバイスをいただく。

⑧大学の授業、活動への参加

宇都宮大学の授業「里山のサステナビリティを考える」に参加させていただき、一緒にFW、発表等を行った。また、スリランカのエステートタミルのスカイプ等による学習支援活動に参加した。

⑨足利大学のフランス語圏からの留学生を招聘

SGHクラブフランス語班主催の「パリ祭 at 佐高」に参加していただいた。

⑩海外研修先の大学との連携

海外グローバル研修ではブリティッシュコロンビア大学(カナダ)を訪問しコンテストの優勝班が課題研究に関するプレゼンテーション、質疑応答を行った。SGHクラブの海外FWでは、訪問先で、国立暨南国際大学(台湾)、サラワク大学(マレーシア)等で交流している。

#### <課題及び改善点>

国内の大学の授業や企画にさらに参加し連携を強化したい。また、マレーシアでの訪問先の大学でもプレゼンテーション等を実施したい。基本的には良好であるのでこれまでの取組を継続していきたい。

### (3) 生徒の変化について

#### <これまでの状況>

4年間の指定を通して生徒たちは、様々な社会課題に関して関心を持ち、問題を設定し、FW等を通してチームで研究し解決に取り組み、探究したことを、PPTやポスターにまとめ、英語等でも積極的に提案しその幾つかは市の政策にも反映されている。

高校1年次に海外グローバル研修に参加する学年の約1/4の生徒達は市の大ホールで原稿なしに英語プレゼンを行い、会場とも英語で質疑を行っている。

即興型英語ディベートに熱心に取り組む生徒達は、ありとあらゆる社会問題について英語で議論し、帰国生が全くいないチームながら全国の舞台でも活躍するようになった。そうして自信を深めた生徒たちは自ら更に様々なことに挑戦し未来を拓いていっているように思える。

こうした成長に関しては、1月に実施する生徒アンケート等によっても明らかである。本校がSGHを通して育成したい6つの力の変化について、1年生の⑤英語で伝える力(変化なし)以外3学年全ての項目で上昇していた。1年生では、①課題を発見し向き合う力で13%(36%→83%)の上昇を見せた。2年生では③協働する力で「自分の役割を理解し、果たすことができる」で9割近い生徒(88%)の生徒が肯定的な回答をした。3年生では、6つの力全てにおいて大きな伸長が見られたが、①課題を発見し向き合う力は、1年次から19.3%上昇し、85.7%と最高値となった。⑥グローバル社会に貢献する高い志に関しては、+24.2%と最大の伸び幅を示し約8割(78.9%)となった。3年間のSGH活動を通して育成を目指した6つ全ての力に関して生徒達が極めて高い評価を下したことは大変嬉しく思う。⑤英語で伝える力に関しては、英検の合格者の増加等の客観的な結果があるにも拘わらず高い数字となっていないため、次年度はその意識改革をはかりたい。また、これまで高2ではほとんどの生徒が英語でプレゼンする機会がなかったこともあってか、「自分の考えを英語でプレゼンすることができる」という項目の評価が低かった。今年度は初めて台湾で全ての生徒が課題研究の英語プレゼンテーションを行ったためか、その値が20%上昇した。継続実施していけたらと思う。

#### <課題及び改善点>

- ・「英語で伝える力」に関して生徒がより実感できるように、英検合格実績やGTECのスコアを確認させるなど事実を踏まえながらポジティブなフィードバックをしていく。
- ・英語プレゼン指導の開発を進めながら、特に高2の英語プレゼンの機会を提供する。

### (4) 教師の変化について

#### <現在の状況>

全ての教員が1年から3年までの課題研究の指導に当たっており、各学年の中間発表会、領域別発表会、地域リーダーズシンポジウム、海外グローバル研修発表コンテスト等の大きな行事も学年中心に企画、運営されるようになっていく。SGH事業を通して教員自身の大きな成長を感じるところである。

また、教科によっては、更に生徒が自主的かつ意欲的に取り組む授業を求めて、中高連携して自発的な会を開くところも出てきた。中学時代に学んでいる内容をシェアし、高校でいかに



引き継ぐか等について話し合っている。

＜課題及び改善点＞

指導の当事者である教員は、成果等を実感しにくい面もあるため、生徒アンケート、保護者アンケート、クリシテストの結果、英検等の資格取得数、各種大会の入賞等客観的な数字を示しながら成果と意義を感じられるようにしていきたい。幸い進路実績は昨春のSGH1期生が過去最高の成績を収めたのに続き、今年度の2期生も記録を更新しつつある。

（５）学校における他の要素の変化について（授業、保護者等）

＜現状＞

SGH指定を受けて、アクティブラーニングを取り入れた指導が全体的に広まりつつある。また、保護者の満足度も以下のように確実に向上している。

保護者による学校評価の変化（H25～R1）

数字は肯定的評価の割合％（わからないを除く）

４：よくあてはまる ３：どちらかといえばあてはまる

２：どちらかといえばあてはまらない １：全くあてはまらない ０：わからない

\* H25, 26 は一部質問項目が異なるため空欄がある。

中学

アソシエイト

SGH 指定

| 質問項目                             | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|----------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| １ 教職員の対応は、熱心で誠実である               |     |     | 90  | 94  | 97  | 96  | 96 |
| ２ 豊かな人間性の育成に努めている                | 89  | 93  | 94  | 96  | 97  | 95  | 96 |
| ３ 確かな教養を身につけさせ、確かな学力を育成している      | 92  | 93  | 92  | 96  | 97  | 95  | 96 |
| ４ 生徒一人一人の進路実現に努めている              |     |     | 88  | 91  | 94  | 91  | 93 |
| ５ 生徒指導や個々の悩みの相談、面談に熱心に取り組んでいる    | 75  | 73  | 83  | 87  | 91  | 90  | 92 |
| ６ 面談やアンケートなどにより、いじめ防止に努めている      |     | 59  | 86  | 86  | 90  | 90  | 95 |
| ７ 魅力的な学校行事を行っている                 |     |     | 98  | 95  | 97  | 97  | 96 |
| ８ 部活動や生徒会活動は活発である                | 78  | 79  | 81  | 81  | 84  | 85  | 87 |
| ９ 学習をする施設や設備が整っている               | 81  | 77  | 81  | 82  | 82  | 79  | 76 |
| １０ 国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成に取り組んでいる |     |     | 91  | 95  | 97  | 96  | 96 |
| １１ 生徒の活動や実績を保護者や地域住民に熱心にPRしている   |     |     | 87  | 88  | 92  | 94  | 93 |
| １２ 本校に自分の子供を入学させてよかった            | 91  | 93  | 94  | 95  | 98  | 97  | 98 |

# 高校

## アソシエイト SGH 指定

| 質問項目                             | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|----------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 1 教職員の対応は、熱心で誠実である               | 88  | 88  | 90  | 91  | 95  | 93  | 94 |
| 2 豊かな人間性の育成に努めている                | 88  | 83  | 87  | 88  | 90  | 89  | 93 |
| 3 確かな教養を身につけさせ、確かな学力を育成している      |     |     | 90  | 90  | 92  | 92  | 91 |
| 4 生徒一人一人の進路実現に努めている              |     |     | 85  | 89  | 89  | 91  | 90 |
| 5 生徒指導や個々の悩みの相談、面談に熱心に取り組んでいる    | 75  | 73  | 83  | 87  | 88  | 88  | 88 |
| 6 面談やアンケートなどにより、いじめ防止に努めている      |     | 55  | 84  | 86  | 86  | 83  | 87 |
| 7 魅力的な学校行事を行っている                 |     |     | 88  | 90  | 90  | 89  | 90 |
| 8 部活動や生徒会活動は活発である                | 74  | 70  | 85  | 84  | 83  | 81  | 83 |
| 9 学習をする施設や設備が整っている               | 73  | 72  | 75  | 80  | 76  | 73  | 74 |
| 10 国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成に取り組んでいる |     |     | 87  | 91  | 91  | 94  | 92 |
| 11 生徒の活動や実績を保護者や地域住民に熱心にPRしている   |     |     | 79  | 85  | 85  | 86  | 85 |
| 12 本校に自分の子供を入学させてよかった            | 82  | 85  | 89  | 90  | 92  | 91  | 92 |

### <課題及び改善点>

先進的なグローバル教育を特色とした本校のブランド化が進むことで、保護者の評価も更に上がると思われるのでアクティブラーニングも一層進めながら、SGH活動の現在の取組を推進していきたい。

### (6) その他課題や問題点について

指定終了後は以下のことが予想されるので対策を考えていきたい。

#### ①大学の先生方の招聘の規模の縮小、回数の減少

##### <対策>

- ・教員研修等を通して指導のノウハウも学んだのでこれまでの学びを活かしながら生徒を指導していく。
- ・大学の授業や企画に参加させていただく。
- ・ボランティアで指導していただいている先生方に継続指導をお願いする。
- ・県の他の予算等他の財源も探す。

#### ②SGHクラブ海外FWの実施

##### <対策>

今後の必要性も含めて実施を検討していく。

### （７）研究開発完了後の持続可能性について

本校はH20年度に中高一貫教育校となって以来、「国際人として活躍できる真のリーダーの育成を」学校目標にグローバルな教育を実施してきた。SGH指定前から実施してきたものも多く、大きなものは継続実施可能と考えている。

#### ①海外グローバル研修

中高一貫教育校１期生が高１となった平成23年度から海外語学研修として実施してきており、更に指定期間中に課題研究の英語プレゼンテーションに関するノウハウを蓄積してきた。研修は生徒の自己負担で実施してきており継続可能である。次年度は更にノウハウを蓄積させたい。

#### ②台湾グローバル研修

１期生が高２となった平成24年度から台湾修学旅行として実施してきており、指定後の継続を考えて、これもSGHからの費用援助はしなかったため指定後もごく自然に継続される。課題研究の発表に関しても進めていきたい。

#### ③課題研究の専門家の指導

特に１年生の課題研究に関しては、指定後も専門家の継続的な指導を受けられるようにすることも大きな目的として指定２年目に「地域リーダーズシンポジウム」を立ち上げた。「地域リーダー」の方のボランティアによって成り立っており継続されと考えている。

#### ④SGHクラブ

ディベート班に関しては、学年の約１割の生徒が加入し、熱心に活動している。大会でも全国優勝等活躍し、課題研究の英語発表次の質疑でもその力を発揮している。ディベートを通して培った様々な力を生徒会や様々な活動でも発揮しており本校発展の大きな推進力の一つともなっている。ノウハウも蓄積され、費用もかからないため継続し本校の発展を支えると思われる。

#### 【担当者】

|     |       |        |                                   |
|-----|-------|--------|-----------------------------------|
| 担当課 | 高校教育課 | T E L  | 028-623-3382                      |
| 氏 名 | 吉川 知宏 | F A X  | 028-623-3393                      |
| 職 名 | 指導主事  | e-mail | t-yoshikawat01@pref.tochigi.lg.jp |